1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　グループホームやまなみ　）

事業所番号	0692500051		
法人名	特定非営利法人やまなみ		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	山形県最上郡最上町向町5-10		
自己評価作成日	平成29年9月26日	開設年月日	平成22年11月1　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3―31		
訪問調査日	平成29年11月7日	評価結果決定日	平成　29年　11月　24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

（1）7年前の開所以来、ほぼ毎月職員学習会を行ってきましたが、今後もテーマを選んで続けて行きたい。
（2）認知症カフェ「カフェやまびこ」は10回を数えたが、引き続き内容を充実させて開催していきたい。
（3）グループホームの創設期に描いたイメージを大切にして、手間暇おしまない生活支援を実行していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設して7年が過ぎ、開設当初の思いに立ち返り全職員で共有し、初心を忘れない統一した姿勢での対応に努め、地域に根差したコンサートなどの文化活動を継続しています。職員は百歳を超える利用者から元気をもらい、皆が穏やかに自分らしく過ごせるよう寄り添っています。食の楽しみを大切に捉え、食材にこだわり、地産地消で季節の郷土料理やお正月のおせちと好物の餅も利用者の笑顔に繋がっています。認知症カフェ「カフェやまびこ」を開催し、高齢者・介護・認知症の話題、昔話などを通して地域の人との楽しい出会いの場となり喜ばれています。今後も地域になくてはならない開かれた事業所を目指して励んでいます。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
		○	2．数日に1回程度
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1．大いに増えている
			2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」　2016年度

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	（1）	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6つの理念がある。職員として採用されると研修があり、理念の説明がある。共有して、実践されている。	6項目のわかりやすい理念を日々の業務に照らし、ケアに反映しているか管理者と確認の機会を設け理解を深めている。新人職員は設立当初の思いを含め研修を受け意識を高めている。	
2	（2）	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやいも煮会に参加したり、ホームの行事として、コンサートや認知症カフェ等に参加し、交流している。	町内・地域の祭りや催事に利用者も多く参加して、法人主催のコンサートも定着し地域から喜ばれている。認知症カフェを隔月実施し、地域の参加やボランティアの協力もあり、認知症の理解と地域の交流の場となり毎回の開催が期待されている。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年春より、認知症カフェ（カフェやまびこ）を開き、認知症の相談等を受けている。又、隔月に発行している会報等でホームの様子を発信している。		
4	（3）	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、行政や地域の方々の参加をいただき、サービスの実際評価等、たくさんの意見をいただいている。	事業所からの活動報告だけでなく事前にテーマを周知して話し合い、医療と介護の連携・看取りに関することや事業運営等に意見をもらい業務に反映している。会議に職員も交替で出席し内容は共有している。	
5	（4）	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認知症カフェにに参加してもらい意見や情報などをいただき交換している。	事業所の状況を見てもらい、適切な指導や相談が受けられ良好な関係が保たれている。認知症カフェでは協力助言を得て実施し、また地域包括支援センターとの連携もより強くして事業を遂行している。	
6	（5）	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	ホームが作成したマニュアルにのっとり定期的に勉強会を行い、職員は正しく理解している。身体拘束はせず、常に玄関にカギをかけていない。	マニュアルやリスクマネジメントの学習を重ね職員は共通理解している。利用者の日常の生活を見守り、家族に安全とリスクの説明をし理解を得ながら、利用者の安全確保を第一に状況に合わせた対応で抑圧感のない暮らしの支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルにのっとり、職員ミーティングや職員学習会で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングや職員学習会等でたまに学習することがあるが、資料や書籍はそろっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、利用者の家族に利用契約書、重要事項説明書、運営規程を読み上げ、説明を行ってから契約している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームの運営に対する意見や苦情が出せるように、ホーム内の相談窓口や国保連を明記している。毎月「たより」を家族に送っている。	家族宅へ請求書の持参時や家族等が通院介助で来所時に意見や要望をさり気なく伺い、遠方の方には電話で確認している。その結果はミーティングで話し合い共有しケアに反映している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを行い、情報を共有し、意見を出し合い、話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間を設定されたが、現実的にはとれない状況だ。有給休暇もとりづらい。育児ができる就業環境を作ってほしい。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、月1回の職員学習会を行っている。	職員の経験や力量に応じて外部研修に参加している。毎月のテーマを決めた学習会でレベルアップを図りケアに活かしている。また職員の家族状況を把握し、産休後の勤務システムに配慮した体制を執るなど職員の働く意欲を大切に捉えている。	外部研修受講後に伝達講習の機会を設るなど、研修内容を共有し全体のレベルアップに繋げられることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ホームコンサート(年3回)に他の施設の方々を招いて交流している。最上地区の7つのGH同業者と連絡会を作り、年6回、交流会を行っている。	最上地区内の7事業所で「おらだの会」連絡会を設け、隔月輪番でテーマを設定し情報交換や交流を図っている。職員交換実習を受け入れ互いに気づきを得るなどケアに活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住宅、施設、病院などに居た頃の状況などを聞き、寄り添い、親身になり、やわらかく話しを聞いてあげるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所された時はできるだけお話をして信頼関係を築いていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から要望を聞き、介護計画に何が必要かを見極めてサービスをすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、新聞折り、袋たたみなど、手伝えそうなことを一緒にやってもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所した時や、通院時等に話し合いをしながら関係を作っている。本人の状態変化があった場合は来所してもらい話し合いを行っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋さんから散髪してもらったり、面会に来ていただいたりして、利用者さんの今までの付き合いを大切にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士、楽しそうに、昔の話しをしていることがよくある。話し合いには職員も入り、一緒に過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議のメンバーになってもらっている家族もいる。特養に移った利用者さんのその後を見学に行ったり、家族との関係を継続している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きな音楽をかけたり、本を読んだりしている人もいる。業務に追われ、利用者さん本位になっていない時もある。	生活歴・日々のかかわりの中から特技や笑顔を引き出し、生き生きと満足した表情が見られる。把握に困難な場合は些細なことでも家族等に聞き、本人の発語・表情を見逃さず観察してケアに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅で使用していたものや、今までしていた仕事などを聞き、ケアカンファレンスで個別の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し、バイタルチェックを行い、健康状態を把握して、生活支援を行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や、カンファレンス3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画に反映し、サービスにつなげている。	担当職員が医療面や日々の様子から思いを把握し、全職員で意見交換している。本人の意向を大事にし家族の要望も取り入れ、その人らしく健康で現状維持できるように計画を作成し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りと日誌に記録して、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで行うコンサートに他のGHの利用者さんを招待したり、地域のまつりやいも煮会・花火大会等には必ず参加している。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町の2つの医療機関で受診している。家族の希望により、かかりつけ医を決め、定期的に受診したり、家族の希望で訪問診療をしてもらっている。	受診は家族の付き添いを基本とするが出来ない場合は職員が付き添いをしている。家族付き添いの場合でも、管理者が必要に応じて診察に同行して現状説明し、受診結果は申し送りや利用者毎の連絡事項綴りで共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師さんの訪問時に情報交換し、指示、アドバイスをもらっている。大変ていねいに診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合はサマリ（病状経過）を作成し、医療機関に提出している。退院時は医療側からサマリに記入してもらって、協力関係を作っている。情報共有にも努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	早い時期に「看取りと重度化に関する指針」を学習し、アンケートや説明をして、家族との話し合いをしている。	病状の変化に伴い医療体制や緊急時対応などを説明し、家族の同意を得て意向に沿えるよう努めている。職員学習会で意思やスキルの統一を図り、家族の不安に寄り添いながら、医師や看護師と連携して、本人の尊厳を守りつつ安らかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応と事故防止マニュアルを繰り返し目を通し、確認している。しかし、夜勤時（1人）の時は不安だ。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の1人勤務時の火災を想定した避難訓練を年2回行ってるが、最近地域の人の参加が少なくなっている。地震等に対応した訓練が課題。	消防署立ち合いで隣家や商店街関係者、防災設備業者などの参加を得て、心肺蘇生法とAEDの使用なども取り入れ訓練を行っている。消防署の講評や、自己反省点を次回に反映して災害に備えている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おちついて、わかりやすい言葉で話しかける努力をしている	生活歴や普段の会話から誇りや望んでいる事を聞き出し、出来ることをやってもらっている。洗濯物たたみや野菜の皮むき、教員だった方は職員研修会に参加し資料の読み上げ等、役割を担うことで誇りを取り戻している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくコミュニケーションをとるよう心がけ、利用者さんの思いを理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたい希望に沿っているが、希望を言えない方もいるので、職員の都合に合わせてしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげをそる。鼻毛を切る。髪をとかす等々心がけている。服を選べる方には選んでもらうようにしている。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、会話をしながら食事を楽しんでいる。今年は家庭菜園も行った。	日々の生活で楽しみな食事には特に力を入れ、食材の安全に気を配り職員の手料理で提供している。芋煮・おせちなどの郷土料理や正月のつきたて餅は特に喜ばれ、在宅時に出来なかった外食も楽しみとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。利用者さんに合わせて、キザミ食、ミキサー食、おかゆ、とろみ食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ってる。就寝前に入れ歯の消毒、洗浄をしている。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者さんの状態に合わせて、声かけ、トイレ誘導、オムツ交換をしている。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、時間を見計らいプライバシーに気を配り声がけをしている。また楽に使用できるように背もたれや手すりを工夫して設置し、トイレでの排泄を大事にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳、ヨーグルトを摂取し、予防に努めている。水分摂取も心がけている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2日に1回ペース（午前中3～4名）で入浴している。個々に応じた時間の入浴はしていない。	職員と1対1で会話を楽しみながら入浴している。浴槽をまたげない利用者は足浴とシャワー浴を同時に行い、ふらつきのある方は2人介助で安全に配慮しながら、気持ちよく入浴してもらえるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルがあり、どんな薬を服用しているか分かるようにしている。服薬まで3回確認して誤薬のないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人楽しみ方がちがうので、その人に合った支援をしている。歌を唄ったり、CDを聴いたり、外気浴、ドライブ等に行ったりしている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや、外食、コンサートなどに出かけている。	隣町の夏祭りや花の公園、紅葉の名所など四季折々の風景や行事などで季節を感じてもらったり、歴史ある施設のコンサートで文化に親しむなど、出来るだけ多く外出の機会を設けている。帰った後は利用者の満足そうな表情が見られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今のところ、お金を所持している利用者はいない。管理もしていない。お金の管理ができなくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたりする人はあまり見られないが、要望があれば職員と一緒に電話することもある。手紙は開けないで本人に渡している。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには絵や写真が飾られ、日当たりのよいリビングは眺めもよく、気持ちよく過ごせる。ほとんどの利用者さんがリビングで過ごしている。	皆が窓からの風景を眺められて利用者同士の関係も考慮して席を配置し、一日のほとんどをホールで過ごしている。時には地区住民や他事業所からお客様を迎えコンサートを行うなど、交流の場にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのんびりと穏やかに過ごしている。気の合った人同士で座れるようにしている。独りになりたい時は自室に自由に移動してお話をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持ってきてもらっている。家族の写真などを飾っている。	備え付けのベッドの他は使い慣れた家具を持ち込んでもらい、自宅と違和感のないように心掛けている。転倒など安全に留意しながら本人の好みに合わせ華美に飾り付けず、落ち着いた住まいに設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり、柱の角にはラバーを張って、リスクをなくしている。リビングの大きい窓には転落防止のサクを取り付けた。		